

木曾地区協議会

Vol.2
2016.3発行

発行責任者
木曾地区協議会
代表 宮本 聖士

連絡先
市民協働推進課
TEL.042-724-4358

第1回 定期総会報告

平成27年2月24日に、設立された木曾地区協議会の組織は、広報誌第1号に組織の説明がありますが、地区の各区域内で活動する各種団体の集合体です。各団体の目的や方向性は多岐にわたるため、活動内容調整の困難さが当初から懸念されていました。そして注目の記念すべき第1回定期総会が平成27年6月23日に開催されました。予算案をめぐり議論百出の末、平成27年度の活動内容が下枠内のように決定されました。

1. 協議会マネジメント事業（予算 10万円）
協議会の運営の充実を図るため、研修会を実施する
2. 地域防災活動事業（予算 65万円）
地域の防災活動を点検し避難所の運営方針等の共有化を図る
3. 地域イベント支援事業（予算 10万円）
地域のイベント情報の共有化を図り、さらなるイベントの充実に協力していく
4. 広報広聴事業（予算 15万円）
活動周知チラシを発行し地区内各種団体及び構成員に配布

今回の広報誌は、上記の決定を受けて、どのように活動したかを報告させていただきます。

協議会マネジメント事業報告

木曾地区協議会防災研修会

(平成27年12月18日 於：町田市教育センター)

防災グッズの紹介及び実験・体験をする研修会

総会で話が出ていた防災グッズについて、体験・比較ができるものを、役員会で精選した。

研修会参加者50名で、体験検討し、実際に使えるものを追求し、次の地域防災活動事業企画につなげる研修会とした。



避難所用の「間仕切りグッズ」を比較検討



【体験・比較した防災グッズ】

体験したグッズ

比較したしたグッズ



(間仕切りテント2種、トイレテント&簡易トイレ、エアーマット2種、ブランケット2種、浄水器2種、ラジオ付き充電器を体験し、防塵マスク2種、水なしシャンプー2種、アルコール液&ジェル、非常食おこげ&パンを比較しました)

【新聞紙で作るスリッパ】

冊子『東京防災p.213』で有名になった「ズボンリュックサック」と同様に、ネット上には、様々な手作り防災グッズの作り方が紹介されています。新聞紙で作るスリッパもその一つです。

<https://www.youtube.com/watch?v=dQPte-Ot2TI>



上記URLはYou Tubeの動画サイトですが、宮崎日日新聞社が提供している動画には、新聞スリッパ以外にも、**皿、帽子、枕**等々、新聞紙での作り方が動画で紹介されています。また、ソナエルワークス(代表：備え・防災アドバイザーの高荷智也さん)のページ、<http://sonaeru.jp/goods/handiwor/>では、**新聞スリッパ**と共に、他の身近な日用品で手軽に作れる、**ランプ、ランタン、マスク**等々、役に立つ防災グッズが紹介されています。

地域の皆様のご要望が多ければ、来年度のイベントでの講習会開催等も検討したいと思います。また、木曾地区協議会の活動に関するご意見を下記アドレスに、メールしていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

木曾地区協議会のメールアドレス kisotiku@outlook.com

地域防災活動事業報告

地域住民防災グッズ体験会

(平成28年2月13日 於：木曾境川小学校)

避難施設運営委員会及び中里橋&木曾南自治会と共催し、従来型の防災訓練ではなく、ゲーム感覚で参加体験できる新イベントを実施し、参加者約90名が真剣にゲームに取り組み、大変好評だった。

- ① 防災グッズの説明と研修会報告
- ② トイレテントと簡易トイレの組立競争 (8人×3チーム対抗)
- ③ 東京防災にあるズボンリュックの工作競争 (3人×5チーム対抗)



地域イベント支援事業報告

避難施設運営委員会支援協力

(平成28年3月11日 於：忠生第三小学校)

避難所設置訓練に協力する形で、事前の避難施設運営委員会にも参加して時間を取っていただき、参加者約100名に対して、防災意識の喚起を促す話と防災グッズ体験を行い、短時間でも有効なものになった。

- ① 研修会及び地域住民体験学習会報告
- ② 防災グッズの紹介(演示実験)



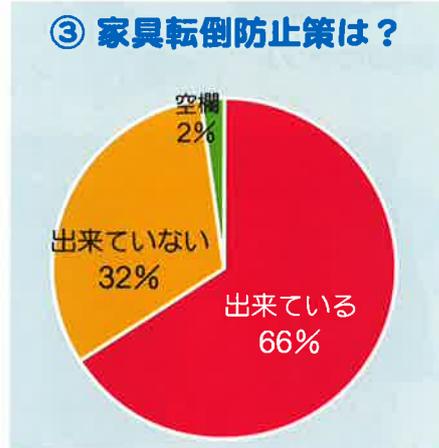
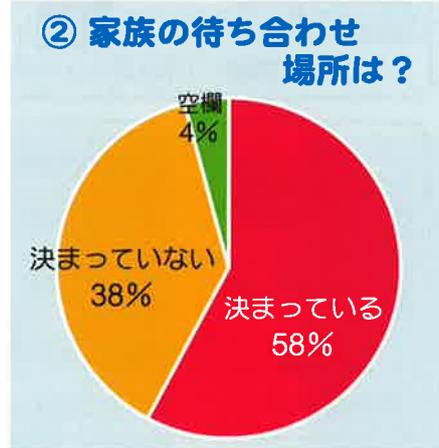
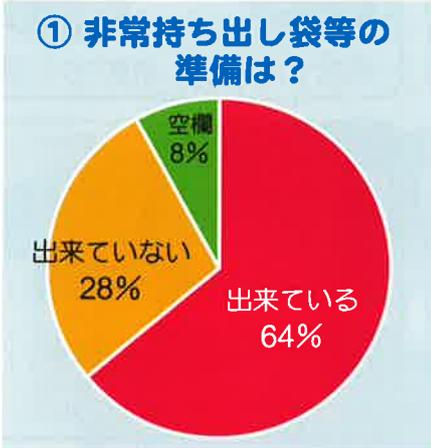


「家庭内の防災対策アンケート結果」

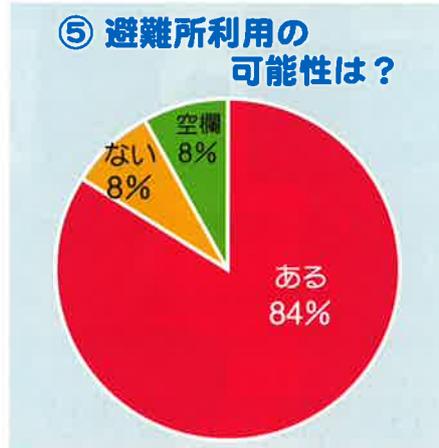
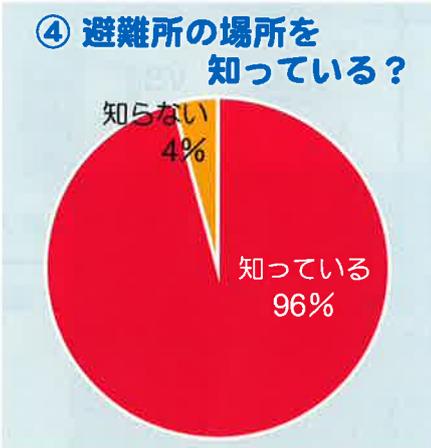
H28. 2.13
実施



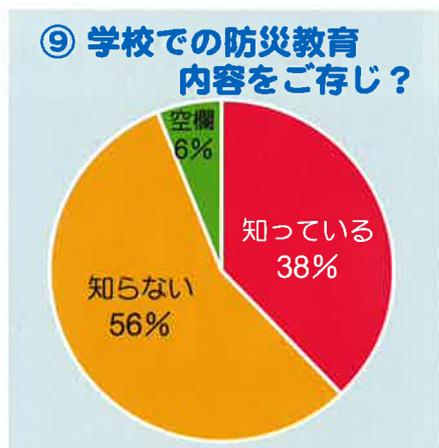
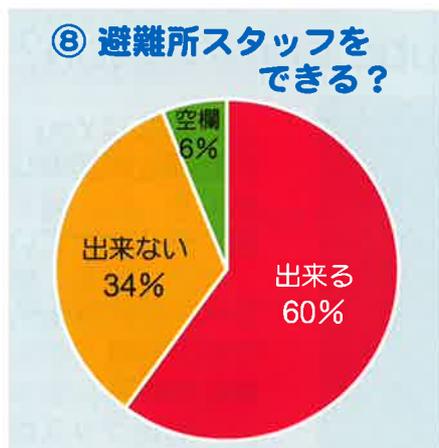
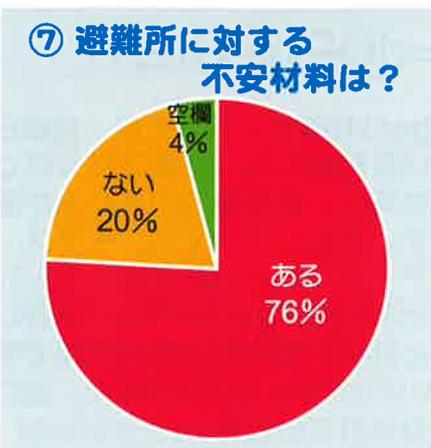
当日、50名の方がアンケートに答えてくれました。
この地区の防災の防災意識の高さが分かります。



以上3つとも「はい」が6割弱～6割強、標準の2倍程度の高い数値です。



⑤⑥は、災害時避難所の役割の大きさを示しています。⑦は「独力で行けない」が16%と心配要素となりました。支援体制をしっかりしないとイケません。



避難所スタッフについて、頼もしい回答をいただきました。この地区は力強いですね。

⑩ 非常持ち出し袋の中身は？
 ベスト5は、軍手25人、タオル23人、飲料水22人、懐中電灯18人、非常食18人でした。
 今後、避難所・自治会・個人で、防災用品として、何を準備するべきか検討を続けましょう。